



プログラム

- 一、講談 田辺いちか
- 二、落語 柳家喬之助
お仲入り(休憩)
- 三、色物 柳貴家雪之介
- 四、落語 林家たい平

今年度の芸術鑑賞会は浜松湖北高校の体育館で学校寄席を上演していただきます。
人と芸を結びつける影向舎さんに、座布団や後ろ幕を持ち込んで体育館に寄席を作っていただきます！
落語・講談・太神楽などの演芸を通して、日本の文化やコミュニケーションを学ぶ機会とし、
間近な距離で、生のエンターテインメントを感じることでできる貴重な時間を経験しましょう。



一、講談 田辺いちか

福岡県北九州市出身
京都府立大学国文学中国文学科卒業
2014年 田辺一邑に入門
2014年 前座となる
2019年 ニツ目昇
2020年 渋谷らくご楽しみな
二ツ目賞 受賞

二、落語 柳家喬之助

埼玉県所沢市出身
明海大学経済学部中退
1993年 柳家さん喬に入門
1997年 一ツ目昇進
2007年 真打昇進



三、色物 柳貴家雪之介

茨城県水戸市出身
1987年 水府流大神楽十八世宗家
実父柳家正楽に師事
1990年 EXPO'90大阪万博出演
2006年 水戸大神楽十八代家元襲名
2009年 柳貴家雪之介を名乗り
高座に上がる

四、落語 林家たい平

埼玉県秩父市出身
武蔵野美術大学造形学部卒業
1988年 林家こん平に入門
1992年 ニツ目昇進
2000年 真打昇進
2010年 武蔵野美術大学
客員教授就任
2014年 一般社団法人
落語協会理事就任



落語とは？

江戸時代に成立し現代まで継承され続けた日本の伝統芸能です。おかしい話や人情噺などを一人で座って演じ、登場人物の会話によってストーリーを進めます。落語家は一人で高座と呼ばれる舞台に座り、通常は扇子と手ぬぐいの他には何も持たずに、身振り手振り、話し方だけでさまざまな役を演じ分けるのが特徴です。300年もかけて織り上げてきた伝統芸能である『落語』には、現代人が忘れかけている生きる知恵や愛情、ものごとの良い面を捉えるプラス思考、それが満ち溢れています。



『噺のツボ』柳家花緑著

『時そば』は、何時？「へっつい」って何ですか？『青菜』のオチがわかる？長屋の“ノリ屋のばあ”って、何している人？品川に宿場があるのはなぜ？江戸時代に“らくだ”っていたの？知ってればもっと古典落語が面白くなる「噺のツボ」=江戸時代の言葉や歴史的教養を知って、古典落語を心底楽しむ！オチの理由、噺の背景、江戸の常識を知ってから、定番の古典落語を読んで、音声配信を聴く。これを読んで聴けばあなたも、ちょっとした『通』の仲間入り！です。



『古典落語100席』立川志の輔著

夫婦愛、親子愛、隣近所の心のふれ合い。人気落語家の立川志の輔が庶民が織りなす笑いのドラマ100を厳選。古典落語入門の決定版。江戸時代の庶民が織りなす人情の機微あふれる古典落語には、「生きる知恵」がぎゅぎゅ詰まっています。落語の登場人物たちが、悩みや苦しみも生き生きと割りきってのりきっていく姿は下手な人生論より爽快で豊かな気持ちになれます。



『教養として学んでおきたい落語』堀井憲一郎著

21世紀になって、いままた盛況となっている落語界。伝統的な古典芸能だと思われがちな一方、「いま」を語るのが落語。江戸時代から続く落語の歴史。古くからある笑い噺から、泣かせる人情話、新作落語まで。落語家とはどんな職業なのか、寄席とはどういう場所なのか、ちょっとしたマナー、時代とともに変わる落語の聞かれ方などについて読んでおきたい一冊。



『ビジネスエリートはなぜ落語を聴くのか』横江信治著

ビジネスでの成功者の多くが落語をよく聞くといいいます。また、ある調査によると年収1000万円以上のビジネスパーソンの約半数が「落語が好き」と回答したといわれています。なぜ成功するエリートビジネスマンは落語を愛するのでしょうか。それは、「伝え方」や「心構え」「処世術」など、落語からは仕事、そして人生で大切なことを学べるからです。落語家を卒業後、ビジネスの世界(金融業界、クリエイティブ業界)で、それぞれ長年の実績をあげてきた著者2人が、落語に学ぶ仕事のエッセンスを紹介します。